

2024年9月吉日

第26回東京大学教育学部附属中等教育学校公開研究会のご案内（第2次）

東京大学教育学部附属中等教育学校

皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本校は2005年度から「協働学習」を通じての学校づくり、授業づくりに取り組み、探究につながる深い学びについての研究を進めて参りました。今年度は生徒が学ぶ姿を教員がどのようにとらえているか、認識しているかに注目し、これからの学校教育の在り方についての研究会を開催いたします。

つきましては、多数の皆様にご参会いただき、ご指導ご助言を賜りたく、ご案内申し上げます。

1 日時・場所

○日時：2024年11月16日（土）9:00～16:30（受付 8:35～）

○場所：東京大学教育学部附属中等教育学校

2 研究主題

「協働学習が拓く一人ひとりの探究的な学び
～教科の授業における生徒が「探究」する姿の提言～」

3 参加費 1,500円（資料代として）

4 時程

8:35～	9:00 ～9:40		9:55 ～10:45		11:00 ～11:50	11:50 ～12:40	12:40 ～14:25		14:40 ～16:30
受付	開会 全体会1	移動	授業1	休憩	授業2	昼食 休憩	教科別 協議会	移動	全体会2 閉会

○開会・全体会1（9:00～9:40）

今年度の公開研究会のねらいおよび取り組みについての説明・報告をします。

【ねらいの概要】

今日の学校教育においては、「探究」は総合学習／探究の時間の授業においてするものとなっているのではないのでしょうか。本校には卒業研究があり、生徒が「探究」する機会の一つとなっています。しかし、本来的に人間は「探究」するものです。そのため、生徒は学校生活や日常生活における様々な場面で日々「探究」しています。

この前提に立つとき、教員が生徒の「探究」をとらえていくことが大切になると考えます。生徒の「探究」する姿を教員がみつけ、生徒が「探究」していると教員がとらえていかないと、生徒の「探究」が妨げられてしまう、排除されてしまいます。生徒が「探究」を進めるためには、日々の教科の授業など、生徒が様々な場面で「探究」していることを前提にする必要があります。これは教員側の問題とも言えます。そのため、今回の研究会のねらいは、教科学習の授業において生徒の「探究」の場面をご参加のみなさまにみつけていただき、生徒が「探究」をする多様な学びの姿について、みなさまと検討ができればと考えております。

○授業 1 (9:55~10:45)

教科	単元・題材	学年	授業者
国語①	<p>「平家物語」 概要：古典を鑑賞する意欲と力を育てることを目標に、「平家物語」を、現代語訳や漫画と比較しながら読む。教科書には現代語訳が載っており、漫画化作品も多数ある中で、古文を読むことの意味を生徒たちが考えられるようにしたい。授業での生徒の様子を踏まえ、国語における探究について参加者とともに考えたい。</p>	2年	工藤裕子
社会① 公民	<p>「難民になる」とはどういうことか？（国際社会） 概要：「あなたの場所はありません。わかりますね。いすがないのです。さあ、いきなさい」。難民になった女の子をえがいた『せんそうがやってきた日』。ニコラ・デイビスとレベッカ・コップの絵本を鑑賞し合ったのち、哲学者ハンナ・アレントの文章から、「難民になる」ということの根本的な問題—人間が世界における足場を失う—を考える。</p>	3年	新海太郎
数学①	<p>平面図形 概要：1年生で作図として操作的・体験的に学んだ三角形の五心を2年生で学んだ証明の仕方を用いて五心の関係を推測し証明することを通してその関係の美しさに触れさせたい。個別の探究と全体の共有とが関連し、それが強制的な共有ではなく子どもの主体性によるものとして実現するための教師の働きかけを含めて提案したい。</p>	3年	今野雅典
理科① 生物	<p>生物の環境応答 概要：発問の工夫、ICTの活用、ジグソー学習、振り返りの共有による「探究」を意識した授業をデザインした。資料を懐疑的にとらえたり、自主的に課題の範囲を超えた学習をしたり、グループでのプレゼン資料を作成したりするなかで、生徒の「分からない」が「分かる・教えたい」へと変化する様子を観察していただきたい。</p>	6年	野村洸真
保健体育①	<p>精神疾患の予防 概要：精神疾患は、誰でも罹る可能性があることを理解する。他の身体疾患と同様に、早期発見・早期治療が回復の可能性を高めるが、精神疾患の早期発見は難しいと言われている。また、その後の治療への遅れも問題視されている。早期発見・早期治療の難しさが何なのか。その要因を協働学習にて探究し、どうすれば自分自身や周囲の人が健康な生活を送れるのか、その実践について考える。</p>	5年	成合弘太郎
英語①	<p>Unit 6 英語以外の外国語の情報を読み解く 概要：フィリピンに住む登場人物の兄についてのスピーチを通して、英語以外の言語や文化についても興味を持ち、異文化を尊重する態度を育てることが目的である。写真などの視覚情報、既知の日本語、英語の知識をもとに、触れたことのないであろう外国語の情報を推測し、試行錯誤しながら意味を考えていく活動を行う。</p>	1年	上田藍
生活デザイン	<p>家計のリスクマネジメントから考える 概要：班ごとに収入をもとにした家計のリスクマネジメントを紙面で作成する。そのために各自が課題を持ち、解決のために情報収集し、班員と話し合いながら学習を進めていく。生涯に起こり得るリスクに対応して計画を見直すシミュレーションを通して、人生の節目ごとにリスクマネジメントを修正していく必要性を理解し、自分の生き方について考える</p>	4年	西田寛子

○授業 2(11:00~11:50)

教科	単元・題材	学年	授業者
社会② 歴史	日本の墓制・葬送を考える 概要：我々は、いつかは「死」を迎える。日本の歴史を概観して、「葬送」のあり方を生徒とともに考えていきたい。生徒には、原始～現代まで各自に該当の時代を考察してもらった。そこから、葬送の変化や、これからの葬送についても考えていきたい。	2年	野崎 雅秀
数学②	指数関数的減少 概要：指数関数的減少のみられる物理的現象についての測定値を元にした予測や説明を行うことを通して、当該現象における量的変化についての理解を深める事を目的とする。高等学校数学Ⅱ「指数関数・対数関数」の単元の導入として実施する。	5年	稲村 建
理科②	神経のはたらき 概要：動物の体内において各部位からの情報はどのように中枢神経に届けられ、逆に命令はどうやって各部位に伝えられるのか。中学2年生ではおおむね「感覚器官」「運動神経」といった神経系の名称や経路を覚えることが学習のメインとなっており、実際に情報や命令の伝わり方については深入りしない。そこで本授業では習得にとどまらず、それらに対して自ら疑問を持ち、探究していけるような授業デザインを考えたい。	2年	對比地 覚
保健体育②	バレーボール 概要：バレーボールの魅力の一つに、ラリーが続くドキドキ感がある。ラリーが続くためにはある程度の技能が要求され、限られた時間で全員がその技能を習得するのは難しい。本時では協働学習を通じてボールの扱い方や仲間との連携方法を考え、みんなで楽しむバレーボールについて探究していく。	3年	堀田 慶子
藝術 美術	色水であそぼう！ 概要：絵の具の三原色を使って色水をつくる。身近な色と光の三原色や基本的な色の知識を学び、三原色でほぼ全ての色をつくれることを経験として知る。また色の組み合わせで様々なイメージを伝えることができることを体験し実感しながら色水作品を制作する。今回の授業はこの単元のまとめの授業になる予定である。	1年	藤田 航
英語②	英語の書体について学ぶ 概要：書体に関する英文を用いた協働的な学びを通して、様々な書体と、その背景について知る。書体に関する知見を広め、状況や意図に合わせた書体を選べるようになる。最終的には、学んだ知識を使って自分で書体をデザインし、それについて英語で説明する。	4年	戸上酒井 和正
情報・技術 生産システム 入門	ものづくりでアントレプレナーシップ体験 概要：一般的にアントレプレナーシップは、起業家精神といわれるが、学校設定科目である生産システム技術では、一人一人が日常の当たり前を見直し、問いを作り、ものづくりでその問いを解決しようとしている。これまでに、働く意義などを議論し、労働観について共有・視点を広げた。働き方や自分の感じる問いを労働と結びつけるかを考え、下駄を製作し、材料の選定・製作方法など生産システムについて協議し、生徒が考える問いをものづくりで解決し、生産システムを構築していく。	6年	阿部 律彦

○教科別協議会 (12:40~14:25)

教科	コメンテーター
国語	一柳 智紀 (教育学研究科〈教育開発コース〉准教授)
社会	勝野 正章 (教育学研究科科長・〈学校開発政策コース〉教授) 小玉 重夫 (教育学研究科客員教授 (名誉教授))
数学	藤江 康彦 (教育学研究科〈教育開発コース〉教授)
理科	本田 由紀 (教育学研究科〈比較教育社会学コース〉教授)
保健体育	山本 義春 (教育学研究科〈身体教育学コース〉教授)
生活デザイン	小国 喜弘 (教育学研究科〈教育学コース〉教授)
藝術 (美術)	山名 淳 (教育学研究科〈教育学コース〉教授)
英語	浅井 幸子 (教育学研究科〈教職開発コース〉教授) 斎藤 兆史 (東京大学名誉教授)
情報・技術	吉田 墨 (工学系研究科〈国際工学教育推進機構〉准教授)

○全体会 2・閉会 (14:40~16:30)

■テーマ「多様な「探究」と教員」

■パネルディスカッション

小国 喜弘 (教育学研究科教授・学校長)、本校生徒・本校卒業生・本校教員
司会：勝野 正章 (教育学研究科研究科長・教授)

※今年度は全体会 2 のみをオンラインで配信する予定で準備を進めています。詳細等は本校 Web サイトで公開研究会の申し込み案内をご確認ください。

5 参加申込

申し込み方法：本校 Web サイトよりお申し込みください。2024 年 10 月上旬に申し込みフォームをアップする予定です。なお、締切人数に達した教科はお申し込みできません。あらかじめ Web サイトで受付中であることをご確認の上、お申し込みください。

[問い合わせ先]

東京大学教育学部附属中等教育学校 研究部

〒164-8654 東京都中野区南台 1 丁目 15 番 1 号

E-mail : kenkyu@ss.p.u-tokyo.ac.jp